

2019 授業科目〈シラバス〉

Okinawa Prefectural University of Arts Syllabus

沖縄県立芸術大学
美術工芸学部

授業科目〈シラバス〉について

この「2019 授業科目〈シラバス〉」は、平成 31 年度に美術工芸学部で開講される専門教育科目について、各担当教員から提出された授業計画（シラバス）をまとめたものです。履修計画や年間の学習計画を立てる際に利用してください。

なお、総合教育科目、共通教育科目及び教職に関する科目は別冊となっています。

1. 実技の授業科目は、その多くが複数の実習（課題）で構成されています。この場合、授業科目の頁のあとに実習（課題）ごとのシラバスが記載されていることがあります。
2. 今年度開講する科目のみを掲載しています。
3. 集中講義科目については、単位数・学期欄に（集中）と表記されています。
4. 担当教員名欄の（名）は名誉教授を、（客）は客員教授を、（非）は非常勤講師を表します。
5. ■履修上の留意点には、履修の条件や注意事項のほかに、授業外の学習を含めて履修にあたり心掛けるべき点、学生への要望等が記載されています。
6. その他、本学の授業科目には科目名の末尾に番号等が付されているものがあります。これらは、科目開設の趣旨や性格、また分類上のルールがありますので、入学時に配布された履修案内等を確認してください。

平成31年度 美術工芸学部開設授業科目表一覧(平成30年度以降入学生用)

対象専攻	科目区分	科目コード	授業科目名	単位数	受講年次	学期	授業区分	頁	
絵画	必修主要	21110	絵画基礎	5	1	前	実技	1	
		21112	日本画Ⅰ	6	1	後	実技	7	
		21113	箔	2	1	後	演習	12	
		21213	日本画Ⅱ－Ⅰ	6	2	前	実技	13	
		21214	日本画Ⅱ－Ⅱ	7	2	後	実技	15	
		21121	油画Ⅰ	7	1	後	実技	21	
		21223	油画Ⅱ－Ⅰ	6	2	前	実技	25	
		21224	油画Ⅱ－Ⅱ	7	2	後	実技	29	
		21231	絵画特論Ⅰ	2	1	通年	講義	42	
		21331	絵画特論Ⅱ	2	2	通年	講義	43	
		21291	古美術研究	4	2	後期	演習	44	
		必修専攻 専門関連	21132	彫刻(絵)	2	1	前	演習	45
			21133	デザイン(絵)	2	1	前	演習	46
			21209	工芸(絵)	2	2	前	演習	47
彫刻	必修主要	22110	デッサン	1	1	前	実技	48	
		22113	彫刻Ⅰ－Ⅰ	5	1	前	実技	49	
		22114	彫刻Ⅰ－Ⅱ	7	1	後	実技	53	
		22213	彫刻Ⅱ－Ⅰ	6	2	前	実技	56	
		22214	彫刻Ⅱ－Ⅱ	6	2	後	実技	59	
		22215	構成	1	2	後	実技	62	
		22231	彫刻特論Ⅰ	2	2	通年	講義	69	
	必修専攻 専門関連	22121	絵画(彫)	2	1	前	演習	72	
		22209	デザイン(彫)	2	2	前	演習	73	
		22132	美術解剖学Ⅰ(骨)	2	1～4	前	講義	75	
選択専攻 専門関連	22133	美術解剖学Ⅱ(筋)	2	1～4	前	講義	休講		
芸術学	必修主要	23110	素描(芸)	2	1	前	演習	76	
		23114	実技研究(絵画)	3	1	後	実技	78	
		23115	実技研究(表現)	2	1	後	実技	81	
		23113	基礎演習	2	1	後	演習	84	
		23217	学外研究	4	2	後	演習	85	
	必修専攻 専門関連	23151	絵画(芸)	2	1	前	演習	87	
		23152	彫刻(芸)	2	1	前	演習	88	
		23153	デザイン(芸)	2	1	前	演習	89	
		23154	工芸(芸)	2	1	前	演習	90	
	選択主要	23431	語学演習A(英語)	4	2～4	通年	演習	100	
		23432	語学演習B(独語)	4	2～4	通年	演習	102	
		23433	語学演習C(仏語)	4	2～4	通年	演習	103	
		23434	語学演習D(伊語)	4	2～4	通年	演習	104	
		23435	原典研究A(古文書)	4	2～4	通年	演習	105	
23436		原典研究B(漢文)	4	2～4	通年	演習	休講		
23437		原典研究C(ラテン語)	4	2～4	通年	演習	106		
23438		美学特講	2	2～4	前	講義	107		
23439		芸術学特講	2	2～4	後	講義	108		
23440		東洋美術史特講	2	2～4	前	講義	109		
23228		日本美術史特講	2	2～4	後	講義	110		
23441	西洋美術史特講	2	2～4	前	講義	111			
23227	比較芸術学特講	2	2～4	後	講義	112			
選択専攻 専門関連	23330	絵画演習A	2	2～3	前	演習	281		
	23331	絵画演習B	2	2～3	後	演習	282		
	23261	彫刻演習A	2	2～3	前	演習	284		
	23262	彫刻演習B	2	2～3	後	演習	285		
	23334	デザイン演習A	2	2～3	前	演習	287		
	23335	デザイン演習B	2	2～3	後	演習	288		
	23336	工芸演習A	2	2～3	前	演習	290		
23337	工芸演習B	2	2～3	後	演習	291			

平成31年度 美術工芸学部開設授業科目表一覧(平成30年度以降入学生用)

対象 専攻	科目 区分	科目 コード	授業科目名	単位数	受講 年次	学期	授業 区分	頁	
デザイン	必修主要	24112	デザインⅠ	3	1	前	実技	113	
		24113	木工芸基礎	2	1	後	演習	116	
		24114	立体造形(デ)	2	1	後	演習	117	
		24115	素描(デ)	1	1	後	実技	118	
		24116	色彩構成	2	1	後	演習	119	
		24117	空間構成	2	1	後	演習	120	
		24223	デザインⅡ-I	7	2	前	実技	121	
		24224	デザインⅡ-II	7	2	後	実技	127	
	必修専攻 専門関連	24121	絵画(デ)	2	1	前	演習	147	
		24123	彫刻(デ)	2	1	前	演習	148	
		24124	工芸(デ)	2	1	前	演習	149	
	選択専攻 専門関連	24132	西洋建築史	2	1~4	前	講義	308	
		24133	日本建築史	2	1~4	後	講義	309	
		24153	クラフトデザイン計画	2	1~4	後	講義	310	
		24161	プロダクトデザイン論	2	1~4	後	講義	311	
		24162	ビジュアルデザイン論	2	1~4	前	講義	312	
		24171	視覚伝達論A	2	1~4	前	演習	313	
		24172	視覚伝達論B	2	1~4	後	演習	314	
		24181	環境造形論	2	1~4	前	講義	315	
		24184	人間工学	2	1~4	後	講義	327	
		24251	図学	2	1~4	前	演習	316	
	工芸	必修主要	25112	描写	1	1	前	実技	150
			25113	色彩	1	1	前	実技	151
			25114	立体構成	1	1	前	実技	152
25101			工芸Ⅰ	7	1	後	実技	153	
25209			工芸Ⅱ	5	2	前	実技	158	
25261			立体造形(工)	1	2	前	実技	164	
25262			版画	1	2	前	実技	165	
25221			染Ⅰ	7	2	後	実技	167	
25231			織Ⅰ	7	2	後	実技	185	
25232			繊維科学	2	2	後	講義	206	
25222			染色化学	2	2	後	講義	207	
25211			陶芸Ⅰ	7	2	後	実技	209	
25212			窯業化学	2	2	後	講義	226	
25241			漆芸Ⅰ	7	2	後	実技	228	
25242		漆芸科学	2	2	後	講義	249		
必修専攻 専門関連		25102	絵画(工)	2	1	前	演習	251	
		25103	彫刻(工)	2	1	前	演習	252	
		25104	デザイン(工)	2	1	前	演習	253	
選択専攻 専門関連		25131	陶磁史	2	1~4	前	講義	318	
		25132	染織工芸史	2	1~4	前	講義	319	
	25151	生活造形論	2	1~4	後	講義	320		
	25152	装飾論	2	1~4	後	講義	321		
	25171	漆芸論	2	1~4	後	講義	322		
25177	色彩論	2	1~4	前	講義	326			

平成31年度 美術工芸学部開設授業科目表一覧(平成30年度以降入学生用)

対象 専攻	科目 区分	科目 コード	授業科目名	単位数	受講 年次	学期	授業 区分	頁
全専攻対象 (一部専攻除く科目あり)	選択共通 専門関連	22132	美術解剖学Ⅰ(骨)	2	1～4	前	講義	75
		22133	美術解剖学Ⅱ(筋)	2	1～4	前	講義	休講
		22202	金属演習	2	2～4	後	演習	292
		23125	芸術心理学	2	1～4	後	講義	293
		23126	芸術学	2	1～4	前	講義	294
		23135	彫刻史	2	1～4	前	講義	休講
		23136	デザイン史	2	1～4	前	講義	295
		23137	工芸史	2	1～4	前	講義	296
		23138	絵画史	2	1～4	後	講義	297
		23141	書道史	2	1～4	前	講義	298
		23142	現代芸術論A	2	1～4	後	講義	299
		23143	現代芸術論B	2	1～4	前	講義	300
		23145	一般芸術学	2	1～4	後	講義	301
		23146	日本美術史	2	1～4	前	講義	302
		23147	東洋美術史	2	1～4	前	講義	303
		23148	西洋美術史A	2	1～4	前	講義	304
		23149	西洋美術史B	2	1～4	後	講義	305
		24132	西洋建築史	2	1～4	前	講義	308
		24133	日本建築史	2	1～4	後	講義	309
		24153	クラフトデザイン計画	2	1～4	後	講義	310
		24161	プロダクトデザイン論	2	1～4	後	講義	311
		24162	ビジュアルデザイン論	2	1～4	前	講義	312
		24163	図法及び製図A	2	1～4	前	演習	330
		24164	図法及び製図B	2	1～4	後	演習	331
		24171	視覚伝達論A	2	1～4	前	演習	313
		24172	視覚伝達論B	2	1～4	後	演習	314
		24181	環境造形論	2	1～4	前	講義	315
		24184	人間工学	2	1～4	後	講義	327
		24251	図学	2	1～4	前	演習	316
		24252	CG基礎	2	2～4	後	演習	317
		25131	陶磁史	2	1～4	前	講義	318
		25132	染織工芸史	2	1～4	前	講義	319
25151	生活造形論	2	1～4	後	講義	320		
25152	装飾論	2	1～4	後	講義	321		
25171	漆芸論	2	1～4	後	講義	322		
25177	色彩論	2	1～4	前	講義	326		
自由科目		21202	写真演習	2	1～4	後	演習	335
		24202	スクリーン印刷演習	2	2～4	後	演習	336

平成 31 年度 美術工芸学部開設授業科目表一覧 (平成 29 年度入学生用)

対象 専攻	科目 区分	科目 コード	授業科目名	単位数	受講 年次	学期	授業 区分	頁		
絵 画	必修主要	21311	日本画Ⅲ	14	3	通年	実技	18		
		21321	油画Ⅲ	14	3	通年	実技	32		
		21331	絵画特論Ⅱ	2	2	通年	講義	43		
		21291	古美術研究	4	2	後	演習	44		
	選択専攻 専門関連	21431	西洋建築史概説A	2	1～4	前	講義	255		
		21432	日本建築史概説A	2	1～4	後	講義	256		
		21433	ビジュアルデザイン概論	2	1～4	前	講義	257		
		21434	視覚伝達概論A	2	1～4	前	演習	258		
		21435	視覚伝達概論B	2	1～4	後	演習	259		
		21436	陶磁史概説A	2	1～4	前	講義	260		
		21437	染織工芸史概説A	2	1～4	前	講義	261		
		21438	生活造形概論A	2	1～4	後	講義	262		
		21439	装飾概論A	2	1～4	後	講義	263		
		21440	漆芸概論A	2	1～4	後	講義	264		
		彫 刻	必修主要	22112	彫刻ⅠB	7	1	後	実技	—
				22212	彫刻Ⅱ	13	2	通年	実技	—
	22312			彫刻Ⅲ	13	3	通年	実技	63	
	22231			彫刻特論Ⅰ	2	2	通年	講義	69	
	22331			彫刻特論Ⅱ	2	3	通年	講義	70	
	22291			古美術研究	4	2	後	演習	71	
専攻専門 関連	22207		デザインB	2	2	前	演習	—		
	22208		工芸B	2	3	前	演習	74		
選択専攻 専門関連	22132		美術解剖学Ⅰ(骨)	2	1～4	前	講義	75		
	22133		美術解剖学Ⅱ(筋)	2	1～4	前	講義	休講		
	22421		西洋建築史概説B	2	1～4	前	講義	265		
	22422		日本建築史概説B	2	1～4	後	講義	266		
	22423		クラフトデザイン計画概論	2	1～4	後	講義	267		
	22424		プロダクトデザイン概論	2	1～4	後	講義	268		
	22425		環境造形概論	2	1～4	前	講義	269		
	22426		陶磁史概説B	2	1～4	前	講義	270		
	22427		染織工芸史概説B	2	1～4	前	講義	271		
	22428		生活造形概論B	2	1～4	後	講義	272		
	22429		装飾概論B	2	1～4	後	講義	273		
	22430		漆芸概論B	2	1～4	後	講義	274		
芸 術 学	必修主要	23112	実技研究	5	1	後	実技	77		
		23113	基礎演習	2	1	後	演習	84		
		23217	学外研究	4	2	後	演習	85		
	選択主要	23421	美学演習Ⅰ	4	3～4	通年	演習	91		
		23422	美学演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	91		
		23423	芸術学演習Ⅰ	4	3～4	通年	演習	92		
		23424	芸術学演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	93		
		23425	日本美術史演習Ⅰ	4	3～4	通年	演習	94		
		23426	日本美術史演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	95		
		23427	東洋美術史演習Ⅰ	4	3～4	通年	演習	96		
		23428	東洋美術史演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	96		
		23429	西洋美術史演習Ⅰ	4	3～4	通年	演習	97		
		23430	西洋美術史演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	97		
		23442	芸術文化論演習	4	3～4	通年	演習	98		
		23431	語学演習A(英語)	4	2～4	通年	演習	100		
		23432	語学演習B(独語)	4	2～4	通年	演習	102		
		23433	語学演習C(仏語)	4	2～4	通年	演習	103		
		23434	語学演習D(伊語)	4	2～4	通年	演習	104		
		23435	原典研究A(古文書)	4	2～4	通年	演習	105		
		23436	原典研究B(漢文)	4	2～4	通年	演習	休講		
23437	原典研究C(ラテン語)	4	2～4	通年	演習	106				
23438	美学特講	2	2～4	前	講義	107				
23439	芸術学特講	2	2～4	後	講義	108				

平成 31 年度 美術工芸学部開設授業科目表一覧 (平成 29 年度入学生用)

対象 専攻	科目 区分	科目 コード	授業科目名	単位数	受講 年次	学期	授業 区分	頁		
芸術学	選択主要	23440	東洋美術史特講	2	2～4	前	講義	109		
		23228	日本美術史特講	2	2～4	後	講義	110		
		23441	西洋美術史特講	2	2～4	後	講義	111		
		23227	比較芸術学特講	2	2～4	後	講義	112		
	選択専攻 専門関連	23125	芸術心理学	2	1～4	後	講義	293		
		23126	芸術学	2	1～4	前	講義	294		
		23135	彫刻史	2	1～4	前	講義	休講		
		23136	デザイン史	2	1～4	前	講義	295		
		23137	工芸史	2	1～4	前	講義	296		
		23138	絵画史	2	1～4	後	講義	297		
		23141	書道史	2	1～4	前	講義	298		
		23142	現代芸術論 A	2	1～4	後	講義	299		
		23143	現代芸術論 B	2	1～4	前	講義	300		
		23145	一般芸術学	2	1～4	後	講義	301		
		23146	日本美術史	2	1～4	前	講義	302		
		23147	東洋美術史	2	1～4	前	講義	303		
		23148	西洋美術史 A	2	1～4	前	講義	304		
		23149	西洋美術史 B	2	1～4	後	講義	305		
		23320	絵画演習	4	2～3	通年	演習	274		
		23321	彫刻演習	4	2～3	通年	演習	277		
		23322	デザイン演習	4	2～3	通年	演習	286		
		23323	工芸演習	4	2～3	通年	演習	289		
		23443	陶磁史概説 C	2	1～4	前	講義	275		
		23444	染織工芸史概説 C	2	1～4	前	講義	276		
		23445	生活造形概論 C	2	1～4	後	講義	277		
		23446	装飾概論 C	2	1～4	後	講義	278		
		23447	漆芸概論 C	2	1～4	後	講義	279		
		デザイン	必修主要	24341	デザインⅢ A	7	3	前	実技	133
				24342	デザインⅢ B	7	3	後	実技	139
				24331	デザイン特別演習	2	3	後	演習	145
				24391	学外研究	4	3	後	演習	146
			選択専攻 専門関連	24132	西洋建築史	2	1～4	前	講義	308
24133	日本建築史			2	1～4	後	講義	309		
24153	クラフトデザイン計画			2	1～4	後	講義	310		
24161	プロダクトデザイン論			2	1～4	後	講義	311		
24162	ビジュアルデザイン論			2	1～4	前	講義	312		
24171	視覚伝達論 A			2	1～4	前	演習	313		
24172	視覚伝達論 B			2	1～4	後	演習	314		
24181	環境造形論			2	1～4	後	演習	314		
24181	環境造形論			2	1～4	前	講義	325		
24182	色彩論			2	1～4	前	講義	326		
24184	人間工学			2	1～4	後	講義	327		
24251	図学			2	1～4	前	演習	316		
24252	CG基礎			2	2～4	後	演習	317		
選択共通 専門関連	25131			陶磁史	2	1～4	前	講義	318	
	25132			染織工芸史	2	1～4	前	講義	319	
	25151			生活造形論	2	1～4	後	講義	320	
	25152	装飾論	2	1～4	後	講義	321			
	25171	漆芸論	2	1～4	後	講義	322			

平成 31 年度 美術工芸学部開設授業科目表一覧 (平成 29 年度入学生用)

対象 専攻	科目 区分	科目 コード	授業科目名	単位数	受講 年次	学期	授業 区分	頁	
工芸	必修主要	25321	染Ⅱ	14	3	通年	実技	173	
		25331	織Ⅱ	14	3	通年	実技	190	
		25322	染織特別演習	2	3	後	演習	208	
		25311	陶芸Ⅱ	14	3	通年	実技	214	
		25312	陶芸特別演習	2	3	通年	演習	227	
		25341	漆芸Ⅱ	14	3	通年	実技	235	
		25342	漆芸特別演習	2	3	前	演習	250	
	選択専攻 専門関連	25131	陶磁史	2	1～4	前	講義	318	
		25132	染織工芸史	2	1～4	前	講義	319	
		25151	生活造形論	2	1～4	後	講義	320	
		25152	装飾論	2	1～4	後	講義	321	
		25162	図法及び製図	4	1～4	通年	演習	328	
		25171	漆芸論	2	1～4	後	講義	322	
		25172	絵画史概説	2	1～4	後	講義	323	
		25173	彫刻史概説	2	1～4	前	講義	休講	
		25174	現代芸術概論A	2	1～4	後	講義	324	
		25175	現代芸術概論B	2	1～4	前	講義	325	
	25176	沖縄美術工芸史概説	2	1～2	後	講義	休講		
	全専攻対象 (一部専攻除く科目あり)	選択共通 専門関連	22132	美術解剖学Ⅰ(骨)	2	1～4	前	講義	75
			22133	美術解剖学Ⅱ(筋)	2	1～4	前	講義	休講
			22202	金属演習	2	2～4	後	演習	292
			23125	芸術心理学	2	1～4	後	講義	293
			23126	芸術学	2	1～4	前	講義	294
			23135	彫刻史	2	1～4	前	講義	休講
			23136	デザイン史	2	1～4	前	講義	295
			23137	工芸史	2	1～4	前	講義	296
			23138	絵画史	2	1～4	後	講義	297
23141			書道史	2	1～4	前	講義	298	
23142			現代芸術論A	2	1～4	後	講義	299	
23143			現代芸術論B	2	1～4	前	講義	300	
23145			一般芸術学	2	1～4	前	講義	301	
23146			日本美術史	2	1～4	前	講義	302	
23147			東洋美術史	2	1～4	後	講義	303	
23148			西洋美術史A	2	1～4	前	講義	304	
23149			西洋美術史B	2	1～4	後	講義	305	
24132			西洋建築史	2	1～4	後	講義	308	
24133			日本建築史	2	1～4	後	講義	309	
24153			クラフトデザイン計画	2	1～4	前	講義	310	
24161			プロダクトデザイン論	2	1～4	前	演習	311	
24162			ビジュアルデザイン論	2	1～4	後	演習	312	
24171			視覚伝達論A	2	1～4	前	講義	313	
24172			視覚伝達論B	2	1～4	前	講義	314	
24181			環境造形論	2	1～4	後	講義	315	
24182			色彩論	2	1～4	前	演習	326	
24184			人間工学	2	2～4	後	演習	327	
24251			図学	4	1～4	通年	演習	316	
24252			CG基礎	2	1～4	後	演習	317	
25162			図法及び製図	2	2～4	後	演習	328	
自由科目	21202	写真演習	2	1～4	後	演習	335		
	24202	スクリーン印刷演習	2	2～4	後	演習	336		

平成 31 年度 美術工芸学部開設授業科目表一覧 (平成 28 年度入学生用)

対象 専攻	科目 区分	科目 コード	授業科目名	単位数	受講 年次	学期	授業 区分	頁
絵画	必修主要	21311	日本画Ⅲ	14	3	通年	実技	18
		21411	日本画Ⅳ	15	4	通年	実技	20
		21321	油画Ⅲ	14	3	通年	実技	32
		21421	油画Ⅳ	15	4	通年	実技	39
	選択専攻 専門関連	21431	西洋建築史概説A	2	1～4	前	講義	256
		21432	日本建築史概説A	2	1～4	後	講義	256
		21433	ビジュアルデザイン概論	2	1～4	前	講義	257
		21434	視覚伝達概論A	2	1～4	前	演習	258
		21435	視覚伝達概論B	2	1～4	後	演習	259
		21436	陶磁史概説A	2	1～4	前(集中)	講義	260
		21437	染織工芸史概説A	2	1～4	前	講義	261
		21438	生活造形概論A	2	1～4	後	講義	262
		21439	装飾概論A	2	1～4	後(集中)	講義	263
		21440	漆芸概論A	2	1～4	後	講義	264
彫刻	必修主要	22311	彫刻Ⅲ	14	3	通年	実技	63
		22411	彫刻Ⅳ	15	4	通年	実技	68
		22331	彫刻特論Ⅱ	2	3	通年	講義	70
	選択専攻 専門関連	22132	美術解剖学Ⅰ(骨)	2	1～4	前	講義	75
		22133	美術解剖学Ⅱ(筋)	2	1～4	前	講義	休講
		22421	西洋建築史概説B	2	1～4	前	講義	265
		22422	日本建築史概説B	2	1～4	後	講義	266
		22423	クラフトデザイン計画概論	2	1～4	後(集中)	講義	267
		22424	プロダクトデザイン概論	2	1～4	後	講義	268
		22425	環境造形概論	2	1～4	前	講義	269
		22426	陶磁史概説B	2	1～4	前(集中)	講義	270
		22427	染織工芸史概説B	2	1～4	前	講義	271
		22428	生活造形概論B	2	1～4	後	講義	272
		22429	装飾概論B	2	1～4	後(集中)	講義	273
22430	漆芸概論B	2	1～4	後	講義	274		
芸術学	必修主要	23411	卒業論文	5	4	通年	演習	86
	選択主要	23421	美学演習Ⅰ	4	3～4	通年	演習	91
		23422	美学演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	91
		23423	芸術学演習Ⅰ	4	3～4	通年	演習	92
		23424	芸術学演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	93
		23425	日本美術史演習Ⅰ	4	3～4	通年	演習	94
		23426	日本美術史演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	95
		23427	東洋美術史演習Ⅰ	4	3～4	通年	演習	96
		23428	東洋美術史演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	96
		23429	西洋美術史演習Ⅰ	4	3～4	通年	演習	97
		23430	西洋美術史演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	97
		23442	芸術文化論演習	4	3～4	通年	演習	98
		23431	語学演習A(英語)	4	2～4	通年	演習	100
		23432	語学演習B(独語)	4	2～4	通年	演習	102
		23433	語学演習C(仏語)	4	2～4	通年	演習	103
		23434	語学演習D(伊語)	4	2～4	通年	演習	104
		23435	原典研究A(古文書)	4	2～4	通年	演習	105
		23436	原典研究B(漢文)	4	2～4	通年	演習	休講
		23437	原典研究C(ラテン語)	4	2～4	通年	演習	106
		23438	美学特講	2	2～4	通年	講義	107
	23439	芸術学特講	2	2～4	通年	講義	108	
	23440	東洋美術史特講	2	2～4	通年	講義	109	
	23228	日本美術史特講	2	2～4	通年	講義	110	
	23441	西洋美術史特講	2	2～4	通年	講義	111	
	23227	比較芸術学特講	2	2～4	通年	講義	112	
	選択専攻 専門関連	23125	芸術心理学	2	1～4	後	講義	293
		23126	芸術学	2	1～4	前	講義	294
		23135	彫刻史	2	1～4	前	講義	休講
		23136	デザイン史	2	1～4	前	講義	295
		23137	工芸史	2	1～4	前	講義	296
		23138	絵画史	2	1～4	後	講義	297

平成 31 年度 美術工芸学部開設授業科目表一覧 (平成 28 年度入学生用)

対象専攻	科目区分	科目コード	授業科目名	単位数	受講年次	学期	授業区分	頁
芸 術 学	選択専攻 専門関連	23141	書道史	2	1～4	前	講義	298
		23142	現代芸術論A	2	1～4	後	講義	299
		23143	現代芸術論B	2	1～4	前	講義	300
		23145	一般芸術学	2	1～4	後	講義	301
		23146	日本美術史	2	1～4	前	講義	302
		23147	東洋美術史	2	1～4	前	講義	303
		23148	西洋美術史A	2	1～4	前	講義	304
		23149	西洋美術史B	2	1～4	後	講義	305
		23320	絵画演習	4	2～3	通年	演習	274
		23321	彫刻演習	4	2～3	通年	演習	283
		23322	デザイン演習	4	2～3	通年	演習	286
		23323	工芸演習	4	2～3	通年	演習	289
		23443	陶磁史概説C	2	1～4	前	講義	275
		23444	染織工芸史概説C	2	1～4	前	講義	276
		23445	生活造形概論C	2	1～4	後	講義	277
		23446	装飾概論C	2	1～4	後(集中)	講義	278
		23447	漆芸概論C	2	1～4	後	講義	279
23442	芸術文化論演習	4	3～4	通年	演習	98		
デ ザ イ ン	必修主要	24341	デザインⅢA	7	3	前	実技	133
		24342	デザインⅢB	7	3	後	実技	139
		24431	デザインⅣ	15	4	通年	実技	144
		24331	デザイン特別演習	2	3	後	演習	145
		24391	学外研究	4	3	後	演習	146
	選択専攻 専門関連	24131	建築史	4	1～4	通年	講義	306
		24153	クラフトデザイン計画	2	1～4	後	講義	310
		24161	プロダクトデザイン論	2	1～4	後	講義	311
		24162	ビジュアルデザイン論	2	1～4	前	講義	312
		24171	視覚伝達論A	2	1～4	前	演習	313
		24172	視覚伝達論B	2	1～4	後	演習	314
		24181	環境造形論	2	1～4	前	講義	315
		24182	色彩論	2	1～4	前	講義	326
		24184	人間工学	2	1～4	後	講義	327
		24251	図学	2	1～4	前	演習	316
	24252	CG基礎	2	2～4	後	演習	317	
	選択共通 専門関連	25131	陶磁史	2	1～4	前	講義	318
25132		染織工芸史	2	1～4	前	講義	319	
25151		生活造形論	2	1～4	後	講義	320	
25152		装飾論	2	1～4	後	講義	321	
25171		漆芸論	2	1～4	後	講義	322	
工 芸	必修主要	25433	染Ⅲ	15	4	通年	実技	182
		25331	織Ⅱ	14	3	通年	実技	190
		25434	織Ⅲ	15	4	通年	実技	202
		25222	染色化学	2	2	後	講義	207
		25322	染織特別演習	2	3	前	演習	208
		25411	陶芸Ⅲ	15	4	通年	実技	223
		25341	漆芸Ⅱ	14	3	通年	実技	235
		25442	漆芸Ⅲ	15	4	通年	実技	246
		25242	漆芸科学	2	2	後	講義	249
		25342	漆芸特別演習	2	3	前	演習	250
	25391	古美術研究	4	3	後	演習	166	
	選択専攻 専門関連	25131	陶磁史	2	1～4	前	講義	318
		25132	染織工芸史	2	1～4	前	講義	319
		25151	生活造形論	2	1～4	後	講義	320
		25152	装飾論	2	1～4	後	講義	321
		25162	図法及び製図	4	1～4	通年	演習	328
		25171	漆芸論	2	1～4	後	講義	322
25172		絵画史概説	2	1～4	通年	講義	323	
25173	彫刻史概説	2	1～4	前	講義	休講		
25174	現代芸術概論A	2	1～4	後	講義	324		
25175	現代芸術概論B	2	1～4	前	講義	325		

平成 31 年度 美術工芸学部開設授業科目表一覧 (平成 28 年度入学生用)

対象 専攻	科目 区分	科目 コード	授業科目名	単位数	受講 年次	学期	授業 区分	頁
全専攻対象 (一部専攻除く科目あり)	選択共通 専門関連	22132	美術解剖学Ⅰ(骨)	2	1～4	前	講義	75
		22133	美術解剖学Ⅱ(筋)	2	1～4	前	講義	休講
		22202	金属演習	2	2～4	後	演習	292
		23125	芸術心理学	2	1～4	後	講義	293
		23126	芸術学	2	1～4	前	講義	294
		23135	彫刻史	2	1～4	前	講義	休講
		23136	デザイン史	2	1～4	前	講義	295
		23137	工芸史	2	1～4	前	講義	296
		23138	絵画史	2	1～4	後	講義	297
		23141	書道史	2	1～4	前	講義	298
		23142	現代芸術論A	2	1～4	後	講義	299
		23143	現代芸術論B	2	1～4	前	講義	300
		23145	一般芸術学	2	1～4	後	講義	301
		23146	日本美術史	2	1～4	前	講義	302
		23147	東洋美術史	2	1～4	前	講義	303
		23148	西洋美術史A	2	1～4	前	講義	304
		23149	西洋美術史B	2	1～4	後	講義	305
		24131	建築史	4	1～4	通年	講義	306
		24153	クラフトデザイン計画	2	1～4	後	講義	310
		24161	プロダクトデザイン論	2	1～4	後	講義	311
		24162	ビジュアルデザイン論	2	1～4	前	講義	312
		24171	視覚伝達論A	2	1～4	前	演習	313
		24172	視覚伝達論B	2	1～4	後	演習	314
		24181	環境造形論	2	1～4	前	講義	315
		24182	色彩論	2	1～4	前	講義	326
24184	人間工学	2	1～4	後	講義	327		
24251	図学	2	1～4	前	演習	316		
24252	CG基礎	2	2～4	後	演習	317		
25162	図法及び製図	4	1～4	通年	演習	328		
自由科目	デザイン	24203	絵画C	3	2～4	通年	演習	334
		24204	彫刻C	4	2～4	前	演習	334
		24205	工芸D	4	2～4	通年	演習	334
	彫刻	22203	絵画A	3	2～4	通年	演習	334
		22204	デザインB	3	1～4	通年	演習	334
		22205	工芸B	4	2～4	通年	演習	334
	工芸	25203	絵画D	3	2～4	通年	演習	334
		25204	彫刻D	4	2～4	前	演習	334
		25205	デザインD	3	1～4	通年	演習	334
	芸術学	23101	絵画B	3	2～4	通年	演習	334
		23102	彫刻B	4	2～4	前	演習	334
		23103	デザインC	3	1～4	通年	演習	334
		23104	工芸C	4	2～4	通年	演習	334
	絵画	21203	彫刻A	4	2～4	前	演習	334
		21204	デザインA	3	1～4	通年	演習	334
21205		工芸A	4	2～4	通年	演習	334	
自由科目		21202	写真演習	2	1～4	後	演習	335
		24202	スクリーン印刷演習	2	2～4	後	演習	336

平成31年度 美術工芸学部開設授業科目表一覧(平成27年度以前入学生用)

対象専攻	科目区分	科目コード	授業科目名	単位数	受講年次	学期	授業区分	頁	
絵画	必修主要	21411	日本画Ⅳ	15	4	通年	実技	20	
		21421	油画Ⅳ	15	4	通年	実技	39	
彫刻	必修主要	22311	彫刻Ⅲ	14	3	通年	実技	63	
		22411	彫刻Ⅳ	15	4	通年	実技	68	
芸術学	必修主要	23228	日本美術史特講	2	2～4	前	講義	111	
		23411	卒業論文	5	4	前年	演習	86	
		23421	美学演習Ⅰ	4	3～4	通年	演習	91	
		23422	美学演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	91	
		23424	芸術学演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	93	
		23425	日本美術史演習Ⅰ	4	3～4	通年	演習	94	
		23426	日本美術史演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	95	
		23428	東洋美術史演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	96	
		23430	西洋美術史演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	97	
		23432	語学演習B(独語)	4	2～4	通年	演習	102	
		23434	語学演習D(伊語)	4	2～4	通年	演習	104	
		23435	原典研究A(古文書)	4	2～4	通年	演習	105	
		23437	原典研究C(ラテン語)	4	2～4	通年	演習	106	
	23438	美学特講	2	2～4	前	講義	107		
	選択 専門関連	23320	絵画演習	4	2～3	通年	演習	280	
		23321	彫刻演習	4	2～3	通年	演習	283	
		23322	デザイン演習	4	2～3	通年	演習	286	
	デザイン	必修主要	24331	デザイン特別演習	2	3	後	演習	145
			24341	デザインⅢA	7	3	前	実技	133
24342			デザインⅢB	7	3	後	実技	139	
24391			学外研究	4	3	後	演習	146	
24431			デザインⅣ	15	4	通年	実技	144	
工芸	必修主要	25321	染Ⅱ	14	3	通年	実技	173	
		25421	染Ⅲ	15	4	通年	実技	182	
		25331	織Ⅱ	14	3	通年	実技	190	
		25431	織Ⅲ	15	4	通年	実技	202	
		25232	繊維科学	2	2	後	講義	206	
		25242	漆芸科学	2	2	後	講義	249	
		25311	陶芸Ⅱ	14	3	通年	実技	214	
		25411	陶芸Ⅲ	15	4	通年	実技	223	
		25312	陶芸特別演習	2	3	通年	演習	227	
		25341	漆芸Ⅱ	14	3	通年	実技	235	
		25441	漆芸Ⅲ	15	4	通年	実技	246	
		25322	染織特別演習	2	3	前	演習	208	
		25391	古美術研究	4	3	後	演習	166	
全専攻共通	選択 専門関連	22132	美術解剖学Ⅰ(骨)	2	1～4	前	講義	75	
		22133	美術解剖学Ⅱ(筋)	2	1～4	前	講義	休講	
		22202	金属演習	2	2～4	後	演習	292	
		23125	芸術心理学	2	1～4	後	講義	293	
		23126	芸術学	2	1～4	前	講義	294	
		23136	デザイン史	2	1～4	前	講義	295	
		23137	工芸史	2	1～4	前	講義	296	
		23138	絵画史	2	1～4	後	講義	297	
		23141	書道史	2	1～4	前	講義	298	
		23142	現代芸術論A	2	1～4	後	講義	299	
		23143	現代芸術論B	2	1～4	前	講義	300	
		24131	建築史	4	1～4	通年	講義	306	
		24153	クラフトデザイン計画	2	2～4	後	講義	310	
		24161	プロダクトデザイン論	2	1～4	後	講義	311	
		24162	ビジュアルデザイン論	2	1～4	前	講義	312	
		24171	視覚伝達論A	2	1～4	前	演習	313	
		24172	視覚伝達論B	2	1～4	後	演習	314	
		24181	環境造形論	2	1～4	前	講義	315	
		24182	色彩論	2	1～4	後	講義	326	
		24184	人間工学	2	1～4	後	講義	327	

平成31年度 美術工芸学部開設授業科目表一覧(平成27年度以前入学生用)

対象 専攻	科目 区分	科目 コード	授業科目名	単位数	受講 年次	学期	授業 区分	頁
全専攻 共通	選択 専門関連	24251	図学	2	1～4	前	演習	316
		24252	CG基礎	2	2～4	後	演習	317
		25131	陶磁史	2	1～4	前	講義	318
		25132	染織工芸史	2	1～4	前	講義	319
		25151	生活造形論	2	1～4	後	講義	320
		25152	装飾論	2	1～4	後	講義	321
		25162	図法及び製図	4	1～4	通年	演習	328
		25171	漆芸論	2	1～4	後	講義	322
		23145	一般芸術学	2	1～4	後	講義	301
		23146	日本美術史	2	1～4	前	講義	302
		23147	東洋美術史	2	1～4	前	講義	303
		23148	西洋美術史A	2	1～4	前	講義	304
23149	西洋美術史B	2	1～4	後	講義	305		
自由科目		21201	絵画	3	2～4	通年	演習	333
		22201	彫刻	4	2～4	前	演習	333
		24201	デザイン	3	1～4	通年	演習	333
		25201	工芸	4	2～4	通年	演習	333
		21202	写真演習	2	1～4	後	演習	335
		24202	スクリーン印刷演習	2	2～4	後	演習	336

実務経験のある教員による授業科目（実践的教育を行う授業）

対象専攻等	区分	授業科目名	単位数	授業区分	教員名	職	担当形態	実務経験等	掲載頁		
学部	選択科目 共通専門 関連科目	ビジュアルデザイン概論 ビジュアルデザイン論	2	講義	笹原浩造	准教授	単独	アートディレクター、化粧品会社宣 伝部勤務（1986～2010年）	257 312		
		視覚伝達概論A 視覚伝達論A（印刷）	2	演習	赤嶺雅	教授	単独	グラフィックデザイナー、民間企業 （情報通信機械器具製造業、印刷業） デザイン室勤務（1986～1992年）	258 313		
		視覚伝達概論B 視覚伝達論B（映像）	2	演習	仲本賢	教授	単独	映像作家	259 314		
		環境造形概論 環境造形論	2	講義	宮里武志	准教授	単独	設計事務所主宰、建築設計事務所等 勤務（1994～2002年）	269 315		
		日本美術史	2	講義	小林純子	教授	単独	公立博物館学芸員（1989～1994年）	302		
		西洋美術史B	2	講義	土屋誠一	准教授	単独	美術批評家	305		
		CG基礎	2	演習	真喜志康一	非常勤講師	単独	デザイン事務所経営	317		
絵画専攻	必修科目 主要科目	日本画Ⅳ	15	実技	平山英樹	教授	複数	日本画家	20		
					香川亮	准教授		画家			
					関谷理	講師		日本画家			
		油画Ⅳ	15	実技	田中睦治	教授	複数	美術家	39～41		
					知花均	教授		版画家			
					高崎賀朗	准教授		画家			
彫刻専攻	必修科目 主要科目	彫刻Ⅳ	15	実技	波多野泉	教授	複数	彫刻家	68		
					砂川泰彦	教授		彫刻家			
					河原圭佑	講師		彫刻家			
					長尾恵那	講師		彫刻家			
		彫刻特論Ⅱ	2	講義	波多野泉	教授	オムニバス	彫刻家	70		
					砂川泰彦	教授		彫刻家			
					河原圭佑	講師		彫刻家			
					長尾恵那	講師		彫刻家			
芸術学専攻	選択科目 主要科目	芸術学演習Ⅰ	4	演習	土屋誠一	准教授	単独	美術批評家	92		
		芸術学演習Ⅱ	4	演習	土屋誠一	准教授	単独	美術批評家	93		
		日本美術史演習Ⅰ	4	演習	小林純子	教授	単独	公立博物館学芸員（1989～1994年）	94		
		日本美術史演習Ⅱ	4	演習	小林純子	教授	単独	公立博物館学芸員（1989～1994年）	95		
		芸術学特講	2	講義	土屋誠一	准教授	単独	美術批評家	108		
		日本美術史特講	2	講義	小林純子	教授	単独	公立博物館学芸員（1989～1994年）	110		
		デザイン専攻	必修科目 主要科目	デザインⅢA	7	実技	笹原浩造	准教授	複数	アートディレクター、化粧品会社宣 伝部勤務（1986～2010年）	133 134
高田浩樹	准教授						単独	デザイン事務所主宰		133 135	
又吉浩	准教授						単独	アニメーション作家	133 136		
宮里武志	准教授						単独	設計事務所主宰、建築設計事務所等 勤務（1994～2002年）	133 137		
座波嘉克	教授						複数	プロダクトデザイナー	133 138		
(インターンシップ)	複数							インターンシップA・B	133		
デザインⅢB	7						実技	又吉浩	准教授	単独	アニメーション作家
				高田浩樹	准教授	単独		デザイン事務所主宰	133 141		
				仲本賢	教授	複数		映像作家	139 142		
				又吉浩	准教授			映像作家			
				赤嶺雅	教授	複数		グラフィックデザイナー、民間企業 （情報通信機械器具製造業、印刷業） デザイン室勤務（1986～1992年）	139 143		
				(インターンシップ)	複数			インターンシップC・D		139	
				工芸専攻	必修科目 主要科目	染Ⅲ		15	実技	渡名喜はるみ	教授
名護朝和	教授						染色家				
織Ⅲ	15	実技	真栄城興茂			教授	複数	染織家、織工房主宰	202 205		
			花城美弥子			准教授		染織家			
陶芸Ⅲ	15	実技	山田聡			教授	複数	陶芸家	223		
			島袋克史			講師		陶芸家			
漆芸Ⅲ	15	実技	糸数政次			教授	複数	漆芸家、県工芸振興センター勤務 （1990～2013年）	246～248		
			水上修			教授		漆芸家			
			當眞茂	准教授	漆芸家						

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
25211	陶芸 I	7単位 後期	2	実技	山田 聡、島袋 克史 非常勤講師

■テーマ

ろくろ技術の習得

■授業概要

基本的なロクロ成形、加飾技法の習得や沖縄の陶土調整、釉薬原料の研究。陶磁器における沖縄や国内の歴史的、文化的側面についての学習

■到達目標

- ・ロクロ成形の基礎的技術の習得（湯呑、マカイ、六寸皿）
- ・様々な加飾技法の特性の理解と作品への応用（マカイ、六寸皿）
- ・様々な焼成方法を体験し、その過程を理解できること。
- ・沖縄の陶磁史や文化的側面の学習、演習（琉球陶磁史、篆刻）を理解すること。

■授業計画・方法

1. 授業概要・課題の説明、機材操作、道具作り（湯呑、ロクロ成形の為）
2. ロクロ基礎成形（陶土調整、菊練り、土殺し等）
3. ロクロ基礎成形（湯呑・水挽き、削り）
4. 焼成Ⅰ（ガス・電気窯による素焼き、釉掛け、本焼き）
5. 焼成Ⅱ（登り窯焼成、薪窯焼成）
6. 加飾技法の説明
7. 加飾技法の道具作り（マカイ、六寸皿）、アイデアスケッチ
8. 加飾技法の参考資料閲覧（図録・収蔵品など）
9. ロクロ基礎成形、加飾技法（マカイ制作、六寸皿制作、提出作品の加飾）
10. 加飾技法、焼成（素地の加飾、釉薬の加飾）、
11. ロクロ基礎成形、加飾技法（湯呑、マカイ、六寸皿）講評
12. 琉球陶磁史（講義、博物館・窯場見学）
13. 蹴りロクロ制作（デモンストレーション、「ウシチキー」による壺制作、大壺、大甕制作）、講評
14. 篆刻（講義・演習、作品印などの制作）
15. 陶芸Ⅰの講評（総括）

定期試験は実施しない。

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・安全に留意し適切な機材操作を習得し、陶土調整をおこなうこと。
- ・ロクロ成形においては、継続的に制作を行い同一形状の器物が成形できること。
- ・加飾については図書館や収蔵作品も参考にしながら、様々な技法に取り組むこと。
- ・焼成については、教員の指示に従って学生各々が協力し、円滑・安全に窯を操作すること。
- ・沖縄陶磁器の歴史的、文化的側面にも研究を深め理解すること。

■成績評価の方法・基準

□方法 提出作品 50%・平常点 30%・講評会発言 20%で総合的に評価する。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（資料）等

□教科書・テキスト

特になし

□参考文献・参考資料

陶芸分野収蔵作品、芸術資料館収蔵作品等

【実習名】 ロクロ基礎成形

【期 間】 10月1日(火)～12月20日(金) ※期間中に「芸大祭」、「琉球陶磁史」あり

【教 室】 崎山キャンパス工芸棟 陶磁器制作室

【担 当】 山田 聡、島袋 克史、非常勤講師 (未定)

【課 題】 湯呑、マカイ・六寸皿

【授業の概要】(テーマ)

基本的な粘土の調整方法やロクロ技法・加飾技法の習得、様々な窯の焼成実習を行う。

【到達目標】

- ・粘土の調整を行うための機械の操作、菊練りの習得。
- ・基本的な器制作によるロクロ技法の習得。
- ・伝統的な加飾技法を学び実際に作品に施し、装飾効果を考える。
- ・様々な窯の焼成実習を通して操作方法を習得する。

【授業計画】

1. 陶芸Ⅰの概要、課題「湯呑」の説明・道具作り、ロクロ技法のデモンストレーション。
2. 粘土の調整、菊練り練習、水挽きの練習(期間中継続して行う)。
3. 「湯呑」の制作、ロクロ成形の習得(水挽き、削り仕上)。
4. 「湯呑」仕上げ、乾燥、素焼き。
5. 焼成実習準備 窯の補修、薪整備。
6. 素焼き焼成 各自の作品を効率的に窯詰し焼成する。
7. 窯詰め作業 作品に釉薬を施し、焼成する。釉薬の種類と特徴を理解する。
8. 登り窯焼成 担当教員、上級生に従い、安全かつ円滑に実習を進める。
9. 窯出し作業 安全に留意しながら、作品を取り出し仕上げを行う。
10. 課題「マカイ、六寸皿」の説明・加飾技法の説明、デモンストレーション。
11. 加飾技法の為の道具作り、資料・文献などを参考にしながら、アイデアを練る。
12. 作品制作Ⅰ 沖縄の古陶磁器の写しとオリジナルのマカイを制作する。
13. 作品制作Ⅱ 様々な加飾技法を用いた六寸皿制作。
14. 作品に使用する釉薬調合と濃度調整
15. 講評、片付け。

【成果物】

- ・マカイ写し1点、オリジナルのマカイ3種。
- ・六寸皿—異なる装飾3種類を各々3枚。

【評価の方法・基準】

□習熟度・学習意欲・協調性等を見ながら平常点、提出作品、レポート等で評価を行う。

【テキスト・参考文献(資料)等】

□参考作品の提示(大学保管作品資料・作家作品等)

【実習名】 琉球陶磁史（講義）

【期 間】 12月16日（月）～12月20日（金）※日程変更の場合もある。

【教 室】 首里崎山キャンパス工芸棟 陶芸講義室・学外

【担 当】 倉成 多郎（非常勤講師）

【課 題】 琉球陶磁史に関するレポート提出

【授業の概要】（テーマ）

琉球弧での窯業生産について、その歴史や成り立ちを学び琉球陶磁史への理解を深めるとともに、今後の作陶の参考となるような情報の提供を行う。

【到達目標】

- ・琉球陶磁史の概要を理解する。
- ・現在の沖縄の窯業地を視察し、理解を深める。

【授業計画】

1. 琉球陶磁史概説①窯業史学習の為の基礎知識
2. 琉球陶磁史概説②先史時代（先史～17世紀）
3. 琉球陶磁史概説③貿易陶磁（15世紀）
4. 琉球陶磁史概説④近世期（17世紀～19世紀）
5. 琉球陶磁史概説⑤近代期（19世紀～20世紀）
6. 琉球陶磁史概説⑥現代（20世紀）
7. 学外フィールドワーク① 那覇市立壺屋焼物博物館
8. 学外フィールドワーク② 壺屋地域
9. 学外フィールドワーク③ 沖縄県立埋蔵文化財センター
10. 学外フィールドワーク④ 浦添市歴史の見える館
11. 学外フィールドワーク⑤ 浦添美術館（古陶）見学
12. 学外フィールドワーク⑥ 読谷村やちむんの里（読谷山焼・大嶺工房）
13. 学外フィールドワーク⑦ 読谷村やちむんの里（読谷北窯）
14. 学外フィールドワーク⑧ 読谷村やちむんの里（島袋常秀工房）
15. 講義総括、レポート説明

【成果物】

- ・琉球陶磁史に関するレポート

【評価の方法】

□方法 レポート60％・平常点（授業内での発言）40％の割合で評価し、採点する

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

【教科書・参考文献(資料)等】

講義中に適宜配布を行なう。

那覇市立壺屋焼物博物館、沖縄県立埋蔵文化財センターなどの資料、収蔵作品

事前準備として『壺屋焼入門』（ボーダーインク新書）『すぐわかる沖縄の美術』（東京美術）を一読しておくことが望ましい。

- 【実習名】 ロクロ成形Ⅰ（蹴りロクロ制作）
- 【期間】 1月6日(月)～1月27日(月) *期間中に「篆刻」あり
- 【教室】 首里崎山キャンパス工芸棟 陶磁器制作室
- 【担当】 新垣 栄（非）、島袋 克史
- 【課題】 「ウシチキー」技法による大物制作

【授業概要】

沖縄の「荒焼」の技法を学習し、「ウシチキー」（つなぎ）技法による大物ロクロ挽きを習得する。また、沖縄の窯業地視察（製土工場、窯場等）も行う。

【到達目標】

- ・道具の特性を理解し、道具制作が行えること。また、その扱いができること。
- ・「ウシチキー」（つなぎ）技法を理解し、自身の制作ができること。

【授業計画】

1. 荒焼の歴史、技法の説明。
2. 上焼と荒焼の相違点（陶土、焼成温度等）の説明。
3. 蹴りロクロ成形の成形方法の解説。
4. 荒焼道具の制作。
5. 蹴りロクロ成形による大物挽きのデモンストレーション。
6. 蹴りロクロ成形 壺、大壺の制作、仕上げ。
7. 蹴りロクロ成形 大壺の制作。
8. 蹴りロクロ成形 自由作品の制作。
9. 作品の乾燥（大物作品を時間をかけて乾燥させる）。
10. 壺屋焼物博物館視察。
11. 沖縄県工業技術センター視察。
12. 壺屋焼物協同組合製土工場、窯場視察。
13. 講評、片付け。
14. あぶり焼き（次年度 大物作品を200℃くらいで時間をかけて焼成）
15. 素焼き、窯出し（本焼きは登り窯実習にて行う）

【評価の方法・基準】

- 方法 作品60%・平常点（授業内での発言など）40%の割合で評価し、採点する。
- 基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

【教科書・参考文献(資料)等】

陶芸分野保管資料
壺屋焼物博物館収蔵品など

【実習名】 篆刻

【期 間】 1月6日(月)～1月26日(月) *左記期間中の3日間

【教 室】 陶磁器制作室

【担 当】 比嘉良勝(非)

【課 題】 石印の制作

【授業概要】

- ・漢字や篆刻について学ぶ。また、石印の制作工程を学習し、今後の制作に活用できる印を制作する。

【到達目標】

- ・印が計画通りに彫れること。
- ・書体や篆刻の歴史などを理解できること。

【授業計画】

1. 実習のガイダンス
2. 書体について① 篆書
3. 書体について② 楷書・隸書
4. 書体について③ 行書
5. 書体について④ 草書
6. 作品鑑賞① 中国古代文学文字
7. 作品鑑賞② 近・現代作家文字
8. 篆刻実習① 道具の使用方法について
9. 篆刻実習② 道具制作
10. 篆刻実習③ 文字の設定と転写
11. 篆刻実習④ 「印」の制作
12. 篆刻実習④ 「印」の仕上げ
13. 箱書実習① 箱書の解説
14. 篆刻実習② 箱書の実践
15. 作品講評、ディスカッション、総括

【成果物】 作品

【評価の方法・基準】

□方法 作品(印)60%・平常点(授業での発言)40%の割合で評価し、採点する。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

【テキスト・参考文献(資料)等】

講師持参の書籍、参考作品

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
25311	陶芸Ⅱ	14単位 通年	3	実技	山田 聡、島袋 克史 非常勤講師

■テーマ

陶芸Ⅰで習得したろくろ技術の向上とそれを活用、応用した作品制作。ろくろ成形以外の成形技法の習得

■授業概要

磁器土制作や更に踏み込んで陶磁器理論（釉薬・素地・焼成など）を学習する。またワークショップなどを通して表現力のある作品制作の基礎を学ぶ。そして陶芸Ⅰで学んだことも踏まえた上で立体表現を行う。

■学習目標（到達目標）

- ・陶磁器制作の理論（素材、成形技法、加飾など）を理解し応用できること。
- ・上記理論を応用し、独自の作品制作を行うこと。
- ・作品展示の効果を考え計画、展示ができること。

■授業計画・方法

1. 陶芸Ⅱの概要の説明、制作の準備、道具作り、粘土調整
2. ロクロ制作（土瓶、急須、ポット）
3. 原材料調整（灰作り、灰汁抜き、水籤）、ロクロ成型
4. ポートフォリオ（作品撮影・編集の演習）
5. 窯業地視察（技術センター、窯場）、原材料調整（釉薬調合、管理）、薪整備
6. 磁器制作の概要説明（5寸皿、輪花鉢制作）、影青技法（レリーフ状の磁器制作）
7. 鋳込成形（磁器の泥漿、石膏型）染付技法（転写技法による下絵・上絵）
8. 茶の文化（古陶磁器の鑑賞、茶の湯体験）
9. 和絵具実習
10. 登り窯焼成（制作）
11. 登り窯焼成（窯の補修、薪整備、窯詰め、本焼き、窯出し、仕上げ、片付け）
12. 古美術研究旅行
13. 洋絵具実習
14. 立体造形制作（アイデアスケッチ、原材料選択、テーマ設定）
15. 立体造形制作（展示場所、形式、ライティング等）の確認
16. 作品発表（作品講評、広報活動、ポートフォリオの整理）陶芸Ⅱの講評（総括）
定期試験は実施しない。

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・ポートフォリオ受講後も作品の撮影・整理を続けること。
- ・磁器制作にあたっては異物（陶土など）混入しないよう注意すること。
- ・登り窯焼成は、教員の指示に従って円滑・安全に行うこと。
- ・立体造形はテーマ設定など、教員と協議を重ね、出来るだけ途中変更しないこと。
- ・立体造形は「3年生展」で発表するため、各自協力して行うこと。

■成績評価の方法・基準

□方法：提出作品50%・平常点30%・講評会発言20%で総合的に評価する。

□基準：到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」則り評価する。

■教科書・参考文献（資料）等

□教科書・テキスト 特になし

□参考文献・参考資料 陶芸分野収蔵作品、芸術資料館収蔵・作品等

【実習名】 ロクロ成形Ⅱ（注ぐ器）

【期 間】 4月8日(月)～5月10日(金) *期間中に「窯業地視察」あり

【教 室】 陶磁器制作室

【担 当】 山田 聡、島袋 克史

【課 題】 「注ぐ器」（土瓶・急須・ポット）の制作、原材料研究

【授業の概要】（テーマ）

土瓶・急須・ポットの本体と、蓋、注口やハンドルなどの付属部品を成形し、それらをバランスよく取り付け、機能性・独創性を考慮した制作を行い、その工程を習得すること。

沖縄独特の釉薬材料である「シルグスイのもと」を生成する。

【到達目標】

- ・機能的で独創的な「注ぐ器」をデザインし、制作する。
- ・沖縄の伝統的な原材料の調整方法を学ぶ。

【授業計画】

1. 「注ぐ器」（土瓶・急須・ポット）課題説明
2. ロクロ技法のデモンストレーション、各パーツに必要な道具作り。
3. 作品資料、図録、文献などを参考にしながら、アイデアを練る。
4. 作品制作／土瓶・急須 本体の制作（口径などをしっかり計測し、記録すること）。
5. 作品制作／土瓶・急須 蓋、注口、取手等のサイズを考慮して制作する。
6. 作品制作／土瓶・急須 各パーツの乾燥具合を考えながら削る。
7. 作品制作／土瓶・急須 茶漉し穴を作る。
8. 作品制作／土瓶・急須 各パーツの大きさ、角度等を考慮して接着する。
9. 作品制作／ポット 本体、蓋、注口等のサイズを考慮して制作する。
10. 作品制作／ポット 本体、蓋、注口等の乾燥具合を考えながら削る。
11. 作品制作／ポット 取手制作と各パーツの接着。
12. 作品制作 土瓶・急須・ポットに合った汲出茶碗、湯呑、カップの制作。
13. 乾燥、素焼き、釉薬掛け、本焼き。
14. 原材料調整—「シルグスイのもと」の調合、焼成、アク抜き、ミル掛け、乾燥。
15. 講評。

【成果物】

- ・土瓶・急須・ポット等3点以上、その「注ぐ器」に合う汲出茶碗かカップ3点（1種類）

【成績評価の方法】

□方法 作品60%・平常点（授業内での発言）40%の割合で評価し、採点する

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

【教科書・参考文献(資料)等】

参考作品を提示する（陶芸分野所蔵作品、作家作品等）

【実習名】 ポートフォリオ演習

【期 間】 4月中の3日間

【教 室】 工芸棟コンピューター室、スタジオ

【担 当】 山田祥包（非）

【課 題】 ポートフォリオの作成

【授業概要】 就職活動を視野に入れ、大学における成果を作品集としてまとめることを目的とする。

【到達目標】

- ・自身の作品を効果的に第三者へ見せる事のできるポートフォリオ制作が行えること。
- ・カメラやIllustratorなどのソフト操作ができること。

【授業計画】

1. ポートフォリオ概要説明（デザイン分野への就職用ポートフォリオとは？）
2. ページネーション、構成、説明順、キャプション、自己紹介ページについて
3. 写真撮影の基礎 デジタル一眼レフの基本操作
4. 露出とシャッタースピード、被写界震度、ISO の設定
5. 実際に作品を撮影する①
背景紙、背景布、木板、布製マットなど背景の違いによる作品の印象の違い
6. 実際に作品を撮影する② 自然光、照明位置、レフ板の有無による見え方の違い
7. デジカメデータをパソコンへ取り込み① 解像度、画像サイズ
8. デジカメデータをパソコンへ取り込み② DPI と出力サイズの関係、トリミング
9. Photoshop によるフォトレタッチの基礎
明るさ補正、コントラスト補正、カラー補正、任意のかたちへの切り抜
10. Illustrator によるレイアウトの基礎
11. 写真の配置、余白のとり方、文字（キャプション）の入れ方
12. Illustrator にて各自レイアウト①（個別指導）
13. Illustrator にて各自レイアウト②
自己紹介ページ、作品間の扉ページ、課題指示内容や時間数などのキャプション
14. Illustrator から出力作業、タイトル・キャプション文字のアウトライン化
15. クリアファイルへ差し込み、ページ校正チェック、総括

【成果物】 ポートフォリオ

【評価の方法・基準】

- 方法 ポートフォリオ本体 60%・平常点（授業での発言）40%の割合で評価し、採点する。
- 基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

【テキスト・参考文献（資料）等】

- 教科書 特になし
- 参考資料 特になし

【実習名】 磁器技法演習

【期 間】 5月13日(月)～7月26日(金) *期間中に集中講義あり

【教 室】 首里崎山キャンパス工芸棟 陶磁器制作室・石膏室

【担 当】 島袋 克史、赤嶺 学(非)、友寄 淳(非)

【課 題】 磁器土を用いて中皿・輪花鉢、鑄込による作品制作を行う。

【授業の概要】(テーマ)

磁器土を用いて制作を行い、その性質を理解し、釉薬・焼成との関連性を学ぶ。

【到達目標】

磁器と陶器の違いを認識し、基本的な磁器の制作技法を学ぶ。

【授業計画】

1. 当実習の概要、道具作り(石膏板、カメ板など)。
2. ロクロ挽きのデモンストレーション。
3. 五寸皿は出来るだけ数多く制作し、焼成する(還元焼成の学習)。
4. 制作一玉挽き(カメ板使用による)磁器のロクロ成形。
5. 制作一八寸皿(和・洋食など使用する用途に応じた形状を考慮する)。
6. 制作一輪花鉢(ロクロ成形した鉢を変形させる)。
7. 八寸皿、輪花鉢は同一形状に仕上げること。
8. 鑄込成形技法、石膏の使用法、当実習の概要の説明。
9. スケッチや参考資料を基に作品のアイデアを練る。
10. 磁器の泥漿の作成と調整。
11. 原型作り、型割り、型取り、乾燥。
12. 鑄込、排泥、乾燥、仕上げ。
13. 各課題は生素地にて講評。
14. それぞれの技法に適した磁器釉の調合。
15. 磁器技法演習の全体の講評。

【成果物】

- ・ロクロ成形による五寸皿、八寸皿、輪花鉢
- ・鑄込成形による立体作品

【評価の方法・基準】

□方法 作品60%・平常点(授業内での発言)40%の割合で評価し、採点する

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

【教科書・参考文献(資料)等】

□陶芸分野収蔵作品・資料や図書館の図録・資料等も参考にすること。

【実習名】 青白磁

【期 間】 5月13日(月)～7月26日(金) *3日間

【教 室】 首里崎山キャンパス工芸棟 陶磁器制作室

【担 当】 塚本 満 (非)

【課 題】 青白磁 (影青) の作品制作

【授業の概要】

青白磁 (影青) について歴史、製作技法と実技を学び、作品制作を行う。

【到達目標】

青白磁の表現方法、歴史を学び、今後の作品制作に繋げる。

【授業計画・方法】

1. 青白磁について
2. 青白磁の歴史
3. 名品の解説、鑑賞
4. 技法例と実習概要について
5. 道具について
6. 影青の素地について
7. 磁器素地 (陶板) の制作
8. 影青と彫り制作アイデアの考察
9. 制作/素地に彫りを施す
10. 影青釉について、影青釉作成
11. 施釉
12. 本焼き
13. 窯出し
14. 窯出し後の作品の観察し、彫りの強弱、表現素材としての彫りと釉の装飾的效果を検討
15. 講評

【成果物】 作品

【評価の方法・基準】

課題の採点、提出作品、平常点など総合的に評価する。

【教科書・参考文献(資料)等】

陶芸分野収蔵作品・資料や図書館の図録・資料等も参考にすること。

【実習名】 ワークショップ（実技）

【期 間】 5月13日（月）～7月26日（金）＊5日間

【教 室】 首里崎山キャンパス工芸棟 陶磁器制作室・陶芸資料室

【担 当】 小野 哲平（非）

【授業概要】

ロクロ演習を中心に、招聘作家の作家論や制作技法に触れ、学生自身が今後の制作活動を相対的に考える。

【到達目標】

- ・自身の作品や制作の方向性について明瞭な発言ができること。
- ・ロクロ技術が陶芸Ⅱの基準に達すること。

【授業計画】

1. 課題説明 ディスカッション①招聘作家の自己紹介
2. ディスカッション② 受講学生の自己紹介（自身の作品などについて）
3. デモンストレーション・水挽き① 湯呑、飯碗、他
4. デモンストレーション・水挽き② 五寸皿、大皿、他
5. デモンストレーション・水挽き③ 壺、他
6. 個別指導 水挽き① 湯呑、飯碗、他
7. 個別指導 水挽き② 五寸皿、大皿、他
8. 個別指導 水挽き③ 壺、他
9. デモンストレーション・削り④ 湯呑、飯碗、他
10. デモンストレーション・削り⑤ 五寸皿、大皿、他
11. デモンストレーション・削り⑥ 壺、他
12. 個別指導 削り① 湯呑、飯碗、他
13. 個別指導 削り② 五寸皿、大皿、他
14. 個別指導 削り③ 壺、他
15. ワークショップ総括、ディスカッション

【成果物】 作品

【評価の方法・基準】

□方法 作品 60％・平常点（授業内での発言） 40％の割合で評価し、採点する。

これまでの制作や自作について質疑応答を行うため、簡潔に述べられるように準備を行うこと。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

【教科書・参考文献(資料)等】

講師持参の書籍、参考作品

【実習名】 登り窯焼成実習

【期 間】 7月27日（土）～10月30日（水） *集中講義含む
10月18日（金）～19日（土）焼成予定（※前期開始後、日程を伝える）

【教 室】 首里崎山キャンパス 陶器制作室・登り窯

【担 当】 山田 聡、島袋 克史、陶芸分野スタッフ

【課 題】 登り窯焼成及び作品制作

【授業の概要】（テーマ）

薪窯の特性を体感する。

【到達目標】

松材やラワン材などの薪燃料による登り窯焼成の特徴と焼成効果を体感し理解すること。

【授業計画】

○作品制作

1. 前期、夏休み期間から作品を制作しておくこと。
2. 課題はなく自由制作とし、出来るだけ多くの作品を制作しておくこと。
3. 素焼き焼成を行っていること。

○焼成準備

4. 薪整備、登り窯・棚板・窯道具の補修を全員で行うこと。
5. 作品の運搬等、安全に留意すること。
6. 前日は十分に休養を取ること。

○登り窯焼成

7. 登り窯の焼成工程を理解する。
8. 温度の管理を行い、炎の出具合などから窯の状態を推測する。
9. 焼成時は教員の指示に従い、実習を安全かつ円滑に進めること。
10. 服装に留意すること（帽子、ゴーグル、マスク、長袖着用）
11. 焼成後は清掃を行い、事故のないように安全を確認する。

○冷却終了後

12. 温度が完全に下がってから窯出しを行う。
13. 棚板・支柱などの窯道具の整理
13. 作品の仕上げ後
14. 作品・窯道具の運搬、片付け。
15. 講評。

【成果物】

・焼成した作品

【評価の方法・基準】

- 方法 作品60%・平常点（作業の姿勢など）40%の割合で評価し、採点する
- 基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

【教科書・参考文献(資料)等】

適宜、書籍などを紹介する。（沖縄美術全集等）沖縄タイムス社

【実習名】 立体表現

【期 間】 10月1日(火) ～ 1月27日(月)

【教 室】 首里崎山キャンパス工芸棟 陶磁器制作室・磁器室・石膏室

【担 当】 山田 聡、島袋 克史

【課 題】 進級作品制作（三年生展展示に向けて）

【授業概要】 陶芸Ⅲで習得した陶磁器制作技術の応用表現

【到達目標】

- ・陶芸分野における課題制作、自主制作を踏まえて、自身の制作指針を考えて制作を行えること。
- ・作品の焼成目的に沿った電気窯、ガス窯などの窯業機材の操作方法を身につけ、焼成できること。
- ・自身の作品の展示効果を考えた展示計画ができること。

【授業計画】

1. 課題説明、制作計画書ガイダンス
2. 制作個別指導（素材、制作技法）
3. 焼成前模擬制作とフィードバック
4. 制作個別指導（焼成技法） ※登窯焼成実習
5. 焼成後作品のフィードバック ※登窯焼成実習
6. 本制作前個別指導、本制作開始
7. 焼成前作品指導
8. 作品乾燥、窯詰準備
9. 焼成期間① 焼成計画及び指導、素焼き窯詰
10. 焼成期間② 素焼き
11. 焼成期間③ 本焼き準備、施釉
12. 焼成期間④ 本焼き窯詰め
13. 焼成期間⑤ 本焼き（酸化・還元焼成他）
14. 作品仕上げ、工房清掃
15. 三年生展展示 分野講評会 工芸専攻全体講評会

【成果物】

- ・陶磁器作品1点以上

【評価の方法・基準】

□方法 作品60%・平常点（授業や全体講評会での発言）40%の割合で評価し、採点する。

附属図書・資料館での作品展示を行うこと。

課題期間中に古美術研究旅行、集中講義を含むので、制作計画に盛り込むこと。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

【教科書・参考文献(資料)等】

陶芸分野収蔵作品・資料や図書館の図録・資料等も参考にすること

【実習名】 特別講座Ⅱ（茶の湯）

【期 間】 4月8日(月) ～ 7月31日(水)＊3日間

【教 室】 首里崎山キャンパス工芸棟 陶芸資料室

【担 当】 金城 聡子（非）

【課 題】 茶の文化

【授業概要】 器から見た茶の文化と時代背景を学習する。

【到達目標】

- ・陶磁器やそのほかの工芸作品と茶の湯の関係性を理解すること。
- ・上記の関係性をレポートや総括の場で発言できること。

【授業計画】

1. 茶の文化について 抹茶
2. 茶の文化について 煎茶
3. 茶の文化について 各国のお茶
4. 中国・韓国の陶磁器
5. 和物の陶磁器 桃山期
6. 和物の陶磁器 江戸期
7. 和物の漆器
8. 茶器について
9. 楽焼について(DVD 鑑賞)
10. 茶道の起源
11. 茶道の分化
12. 現代の茶道
13. 茶会の流れ
14. 茶の湯実践
15. 総括

【評価の方法・基準】

□方法 レポート 60％・平常点 40％で評価し、採点する。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

【教科書・参考文献(資料)等】

講師が紹介する茶碗などの作品（現代作家・古陶磁等）

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
25313	陶芸Ⅲ	15単位・通年	4	実技	山田 聡 島袋 克史 非常勤講師

■テーマ

卒業制作

■授業概要

担当教員の指導のもと4年間の集大成として、卒業制作展にむけて制作を行う。前期制作(テストピース、習作など)・後期制作と年間を通して作品制作を行う。教員の実務経験を背景にした指導を行い、地域社会との連携を念頭に具体的な方法論を実践的に学ぶ。

■到達目標

- ・分野においての習得した技術や素材などの研究成果を発揮すること。
- ・作者の制作計画に沿って制作できること。
- ・ミーティング発言や制作意図や制作過程など自身の思考を、他者に対して発言し、相互理解が達成できること。
- ・独創かつ意欲に富んだ制作を行うこと。

■授業計画・方法

前期	後期
1. 前期計画書提出、初回ミーティング	1. 前期制作フィードバック
2. 制作開始、素材研究(胎土、技法等)	2. 後期計画書提出、後期ミーティング
3. 焼成研究・楽焼、素材研究(胎土、釉薬等)	3. 登窯整備 ※分野全学年参加
4. 陶磁器原材料論(講義)	4. 焼成研究・登窯 ※分野全学年参加
5. 進捗報告会(前期制作)	5. 進捗報告会(後期制作)
6. 素材研究(釉薬調査、焼成テスト等)	6. 素材の個別指導
7. 制作の個別指導	7. 成形や技法の個別指導
8. 技法研究及び焼成研究(酸化、還元)	8. 焼成の個別指導
9. 進捗報告会	9. 進捗報告会
10. 素材の個別指導	10. 制作個別指導(改善点など)
11. 成形や技法の個別指導	11. 最終個別指導、卒展展示計画作成
12. 焼成方の個別指導	12. 作品仮提出 最終進捗報告会
13. 7月ミーティング	13. 作品仕上げ、卒展展示計画決定
14. 進捗報告会、改善点などの制作個別指導	14. ポートフォリオ制作
15. 前期提出、前期講評会	15. 後期提出 後期講評会 ポートフォリオ提出

定期試験は実施しない。

■履修上の留意点(授業以外の学習方法を含む)

- ・卒業制作の方針は、教員と協議を重ね変更の無いよう計画を立てること。ただし、変更が生じたときはミーティングなどで、教員に報告すること。
- ・登窯焼成は、教員の指示に従って円滑・安全に行うこと。
- ・後期作品提出の際、ポートフォリオの提出すること。制作過程の撮影・画像整理を続けること。
- ・後期提出作品は、卒業制作展において発表することを念頭におき、準備を行うこと。

■成績評価の方法・基準

□方法 提出作品(ポートフォリオ)60%・平常点20%・ミーティングの発言20%を基に、教員の合議によって採点する。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献(資料)等

□教科書・テキスト

適宜、学生のテーマに沿った図書を紹介する

□参考文献・参考資料

陶芸分野収蔵作品、芸術資料館収蔵作品等

【実習名】 陶磁器原材料論

【期 間】 4月8日(月) ～ 7月26日(金) *左記期間の内5日

【教 室】 陶芸資料室

【担 当】 與座 範弘 (非)

【課 題】 卒業制作を視野においた原材料研究。

【授業の概要】 (テーマ)

陶磁器制作における原材料を把握と、その取り扱いの解説。

【到達目標】

- ・ 釉調合の基本を理解できること。
- ・ 卒業制作のテーマに沿った釉調合が行ええること。
- ・ 焼成によって生じたトラブルが検証でき、解消できること。

【授業計画】

1. ガイダンス：陶磁器原材料① 土壌の成り立ち
2. 陶磁器原材料② 各種鉱物について
3. 釉薬の成り立ちについて (三角座標・直角座標)
4. 釉薬直角座標において釉薬の展開
5. 釉薬と焼成理論解説
6. 沖縄の陶磁器材料について① マンガンノジュール、鈴石、クチャ
7. 沖縄の陶磁器材料について② 木々の灰、その他産出する鉱物
8. 作品制作個別指導と実習① 各自の研究内容の聞き取り
9. 作品制作個別指導と実習② 原料調合 テストピース制作方法
10. 作品制作個別指導と実習③ テストピース制作 焼成法の検討
11. テストピース焼成結果と考察
12. 今後の展開① (原料調整) 個別指導
13. 今後の展開② (制作技法) 個別指導
14. 今後の展開③ (焼成方法) 個別指導
15. 総括

【成果物】

- ・ 卒業制作に使用する釉薬レシピ

【評価の方法・基準】

□方法 釉薬調合の理解度 60%・平常点 (授業での発言) 40%の割合で評価し、採点する。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

【テキスト・参考文献 (資料) 等】

□教科書 特になし

□参考資料 特になし

【実習名】 焼成研究・楽焼

【期 間】 4月8日(月) ～ 7月26日(金) *左記期間の内5日間

【教 室】 首里崎山キャンパス工芸棟 陶磁器制作室

【担 当】 吉村楽入(非常勤講師)

【課 題】 楽茶碗成形技法と焼成技法の習得

【授業の概要】 (テーマ)

楽焼の基礎的制作、焼成方法の解説と実制作

【到達目標】

・楽焼の制作や焼成の基本を理解できること。

【授業計画】

1. 課題説明、ガイダンス
2. 楽茶碗の歴史、茶碗の構造、胎土解説
3. 制作計画(アイディアスケッチ等)
4. 制作① 制作デモンストレーション 手捏ね解説
5. 制作② 手捏ねによる実制作
6. 制作③ 手捏ね成形、高台作り解説、高台削り
7. 制作④ 作品乾燥
8. 焼成説明 楽窯解説(窯の歴史、構造等)
9. 焼成準備(簡易楽窯制作)
10. 焼成準備(簡易楽窯仮焼き)
11. 焼成準備(赤楽、黒楽釉薬調合)
12. 焼成① 赤楽釉掛け、予備赤楽焼成
13. 焼成② 黒楽釉掛け、予備黒楽焼成
14. 焼成③ 赤楽、黒楽 本焼成
15. 作品仕上げ、ディスカッション(薄茶体験)、工房清掃

【成果物】

・陶磁器作品2点以上

【評価の方法・基準】

□方法 作品60%・平常点(授業内での発言)40%の割合で評価し、採点する

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

【教科書・参考文献(資料)等】

陶芸分野収蔵作品・資料や図書館の図録・資料等も参考にすること

講師持参の参考作品等

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
25212	窯業化学	2単位 後期 (集中)	2	講義	與座 範弘

■テーマ

窯業の科学的な側面を理解する。

■授業概要

窯業の分野において、特に陶磁器の原料・成形・焼成などの工程を科学的に明らかにし、県内の窯業資源についても理解を深める。

■到達目標

- ・窯業に関する科学的知識を理解する。
- ・沖縄県内外の窯業資源の特性や使用目的、使用方法について理解を深める。
- ・陶磁器の製造工程における要素技術や工程中の素地の変化について理解する。
- ・釉薬及びその調合法について理解を深める。

■授業計画・方法

1. 化学や物理、地学など、窯業、特に陶磁器の製造に関連する基本的な知識
 2. 基本的な化学等の知識に関する演習問題
 3. 陶磁器原料の概要と原料に関するデータの見方
 4. 陶磁器の種類とでき方、その基礎性状
 5. 沖縄県産原料について
 6. 陶磁器原料に関する演習問題
 7. 原土の採取と製土
 8. 陶磁器の成形について
 9. 陶磁器の焼成について
 10. 素地の試験方法
 11. 陶磁器の製造に関する演習問題
 12. 釉薬の分類と原料について
 13. 釉薬の調配合試験について
 14. 釉薬に発生する欠陥
 15. 釉薬に関する演習問題
- 定期試験は実施しない

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・履修に於いては、科学的な知識が必要であり、自己評価をしながら問題点は適宜指導を受けること。

■成績評価の方法・基準

- 方法 出席状況や授業態度を確認しながら、演習問題又はレポート等を中心に評価する。
- 基準 到達目標を観点として、履修規定に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（資料）等

講師持参による資料（沖縄県工業技術センター報告書等）

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
25312	陶芸特別演習	2 単位・通年	3	演習	前期 南 絢子(非) 後期 原紺 修二郎(非)

■テーマ

造形領域を拡大するための上絵技法の習得

■授業概要

陶磁器分野において加飾技法は多種多様であり、今後、作品制作を行う上で非常に重要な工程である。とりわけ、上絵技法は、他の加飾技法の中でも表現領域が幅広い。この陶芸特別演習は、和絵具と洋絵具の成り立ちと特性を前・後期の演習で学び陶磁器分野の知識を深め、今後の研究、制作への活用できることをねらいとする。

■到達目標

・学生各自は、和絵具、洋絵具の特性を捉えた上で、各々のテーマを設定し研究制作を行うことで、基礎的な加飾技法の習得を目標とする。

■授業計画・方法

1. 前期 課題説明と和絵具技法解説
2. 和絵具の制作
3. 下図構成と作成
4. 器物への下図転写方解説
5. 器物への下図転写演習
6. 上絵（和絵具）の焼成解説
7. 和絵具焼成実習、前期作品講評
8. 後期課題説明と洋絵具技法解説
9. 洋絵具の制作
10. 下図構成と作成
11. 器物への下図転写方解説
12. 金銀彩解説、器物への下図転写演習
13. 上絵（洋絵具、金銀彩）の焼成解説
14. 洋絵具焼成実習、後期作品講評
15. 総括

定期試験は実施しない。

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・履修においては、陶磁器分野の基礎知識が必要である。
- ・演習中は、絵具調整、描画制作などで生じた問題点は、その都度、担当講師から指導を受けること。

■成績評価の方法・基準

□方法 提出作品（60%）、平常点（20%）講評会での発言（実験結果など）（20%）の比率で採点する。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（資料）等

□教科書・テキスト

特になし

□参考文献・参考資料

陶芸分野収蔵作品、芸術資料館収蔵作品等